

## 岩下壮一の中世哲学研究

加藤 和哉（聖心女子大学）

岩下壮一（1889-1940）は、1909年（明治42年）に東京帝国大学哲学科に入学した。彼がフランス語で書いた卒業論文「アウグスティヌスの歴史哲学」は師事したケーベルの絶賛を受け、当時の文科大学長上田萬年は、岩下を留学させた後、帝大でスコラ哲学講座を担当させるという構想を示したという。岩下が留学中にカトリック司祭となって帰国したためこの構想は実現せず、その後東大にスコラ哲学講座が設けられることもなかった。しかし、岩下自身には司祭になったからといって哲学研究を離れるつもりは毛頭なかったと見られる。実際、10年にわたって務めたハンセン病療養施設神山復生病院の院長を辞任した後、岩波書店から「中世哲学史」を刊行する約束をしていたとされる。それはその突然の死によって実現することがなかったのである。本提題では、近年（再）発見された岩下の受講ノート、研究ノート、日記、書簡などの諸資料から、岩下壮一の中世哲学研究の概要と構想について紹介する。